

インターンシップ研修生引き受けの趣旨

(平成20年5月7日工学系教育研究センター長裁定)

工学系研究科及び情報科学研究科におけるインターンシップ研修生引き受け制度は、グローバルな観点で北大の教育機能を果たすためのものであると同時に、「本学学生の能力向上に資すること」を大きな目的としています。具体的には、次のような効果を期待しています。

1. 受け入れ研修生と研究室学生の交流による教育効果

受け入れ研究室の学生の国際コミュニケーション能力、外国人との協同による研究遂行能力の向上、積極性、異文化理解の促進、等が期待されます。

2. 外国人学生の我国および北海道大学への理解促進

これは我が国および北大の教育戦略として重要です。また、将来の北海道大学大学院への進学の可能性を開くことができます。

3. 1研究室における年間受入れ支援最大人数

CEED はインターンシップ研修生の滞在費の一部を支援するが予算に限りがあることと、受け入れ研修生と研究室学生の交流による教育効果をより多くの研究室に普及する主旨から、各研究室での受入れ支援人数は最大2名とする。

CEED は上の観点から経費の支援を行います。受け入れ研究室ではこの趣旨を理解頂き、研究室学生および外国人研修生の双方に有意義で教育効果のある研修期間として頂くようお願い致します。具体的には、担当の学生グループを作り、協同して **project** を遂行させる、ゼミ、コンパなどで英語によるコミュニケーション機会を多く作る、諸行事による相互理解の促進を図る、等をご留意頂ければ幸いです。

また、この趣旨から、研修内容が明確でない場合、および、研修生を単なる実験補助者として使用するような場合は、受け入れの経費支援を採択しない方針です。

なお、海外インターンシップを経験した学生を中心に、「北大国際インターンシップ学生委員会(SCID)」があり、学生サイドでのインターンシップ生、留学生との交流機会を作っています。これにつきましても、ご理解とご支援を戴きますよう、お願い致します。

CEED ではインターンシップ期間終了後に、受け入れ教員および研修生双方から報告書を提出頂いています。双方からの報告、意見を参照して、受け入れ支援制度の健全な発展を図って参ります。

附記

この取扱いは、平成20年5月7日から実施し、平成20年4月1日から適用する。